

## > 学生支援



平成25年3月にリニューアルした新「啓明寮」の外観

### 農学部学生寮「啓明寮」がリニューアル ～キャンパスアメニティの充実～

平成25年3月28日（木）、老朽化と耐震補強のために改築を行っていた農学部学生寮「啓明寮」が完成、開寮式を行いました。

改築前の啓明寮は、昭和41年に設立、木造で2人1部屋の相部屋が52室の男子寮でしたが、今回改築に伴い個室化、1階に男子用44室、2階に女子用27室を設けました。それぞれの個室にはトイレ付ユニットバス、エアコン、オール電化のミニキッチンを備え、2階の女子寮フロアへの入り口には指紋認証によるセキュリティを設けるなど、時代の要請に対応した寮に生まれ変わりました。

平成24年度にはほかにも小白川及び米沢キャンパスの総合研究棟、飯田キャンパス体育館の整備を完了し、さらに飯田キャンパスの総合研究棟を現在再整備中です。

学生がより快適で安全・安心なキャンパスライフを送れるように、山形大学はキャンパスアメニティの充実に努めていきます。

## 手厚いキャリアサポートプログラム ～キャリア教育から就職支援まで～

学生の将来のために、いかにその大学生活を充実したものにすることができるか。山形大学では充実した就職支援に加え、学生の入学時からキャリア教育の授業科目を設け、早期から将来や進路を考えるきっかけ作りに努めています。

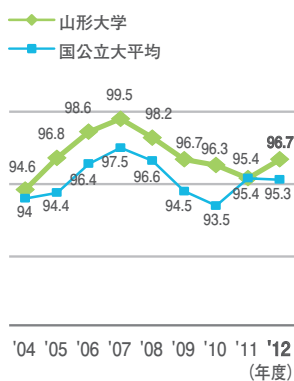
平成24年度からスタートした基盤教育科目「キャリアデザイン」では、自己理解を深めた上で、社会全体に目を向け就業観・職業観を養うことで、本学が掲げる人生を強く豊かに生きていくための「人間力」を高め、早期から自分の将来について考え、進路決定できる力を身につけることを目的にしています。

講義を担当する小白川キャンパスキャリアサポートセンターの松坂暢浩准教授は、平成25年度の基盤教育ベストティーチャー賞を受賞。自身の実社会での経験を生かした学生主体型の講義内容に、前後期で延べ330人余りの履修生が高い満足度を示したことが受賞につながりました。

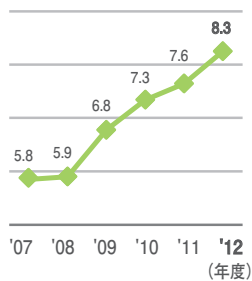
就職支援の場面においては、学生ボランティアが努めるキャリアサポーターが就活セミナーの企画・運営やエントリーシート添削などの就活支援活動の一端を担うことで、学生による学生視点での就職支援に取り組んでいるのも特徴です。

このような取り組みもあり、平成25年3月卒業生の就職率は96.7%となっており、国公立大学の平均水準を上回る数値となっています。

就職率(%)



授業料免除率(%)



※東日本大震災による被災学生に係る授業料免除で、運営費交付金により措置された分について、'11は136百万円を、'12は103百万円を除いています。

## 奨学金制度の充実

「何よりも学生を大切に作る大学」を目指して、山形大学は学生の就学支援にも力を入れており、本学独自の様々な奨学金制度を設けています。

平成20年度にスタートした「YU Do Best奨学金」は、学生が存分に勉学に励み、生活できる教育・研究環境を整備するために創設された本学独自の奨学制度です。

また、「山形大学学生支援基金奨学金」として、経済的な理由により一時的に学費の納付等が困難な学生に対して、奨学金を無利息で貸与する制度により、学業の援助を図っています。

さらに、東日本大震災により被災した学生への支援策として、特別枠での授業料・入学料免除を引き続き実施しています。

本学では、社会情勢や経済情勢など状況に応じて柔軟な学生支援に努めてまいります。

(参考)

### 本学独自の主な奨学金制度

#### 「YU Do Best 奨学金」

学部3年生(医学部医学科は5年生)を対象。返還義務のない給付奨学金(月額3万円)を2年間給付

#### 「山澤進奨学金」～山形俊才育成プロジェクト～

返還義務のない給付奨学金(月額5万円)に加えて、本学では受給者の入学料・授業料を全額免除

→ 4年間で総額約480万円(医学部医学科の場合、6年間で総額約710万円)

#### 「エリアキャンパスもがみ土田秀也奨学金」

山形県最上地区の学生を対象。返還義務のない給付奨学金(月額4万円)に加えて、本学では受給者の

入学料・授業料を全額免除

→ 4年間で総額約434万円(医学部医学科の場合、6年間で総額約637万円)

#### 「学生支援基金奨学金」

授業料等の支払いが一時的に困難な学生に、使途が学費納付の場合は上限30万円まで、生活費補填の場合は上限20万円まで貸与

## 大崎教授の海外駐在記 ～国際交流への取組～

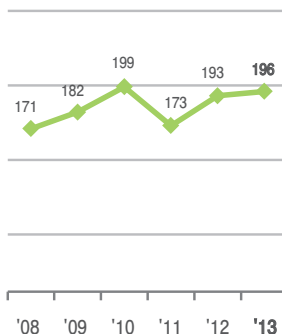
本学では、国際社会との連携促進のため、平成22年度に「山形大学グローバル化のための基本方針」を策定しており、この方針に基づいて留学生の受入を促進するなど、大学の国際化に努めています。平成24年度は新たにアジア、ヨーロッパ及び南米の11大学との大学間交流協定、イタリアの大学との学部間交流協定を締結し、大学間交流協定は25ヶ国57機関、学部間交流協定は22ヶ国78機関となりました。外国人留学生については、平成25年5月1日現在、28の国と地域から196人が在籍しており、山形大学で学んでいます。一方、山形大学から海外に派遣している学生は、6ヶ国11人となっています。

山形大学では、グローバルな学生交流、研究交流の拠点として、学術交流協定を締結しているハノイ農業大学（ベトナム）、延辺大学（中国）、ジョモケニアアッタ農工大学（ケニア）、カトリカ大学（ペルー）、ガジャマダ大学（インドネシア）、ラトビア大学（ラトビア）及びヨーロッパ原子核研究機構（CERN：スイス）にサテライトオフィスを設置しています。その中で大学海外サテライトオフィスや学術交流協定校に数ヶ月単位で駐在し、本学の情報発信や、現地と本学の学生・教員の交流や共同研究等のサポートを行っているのが、渉外課の国際交流担当教授、大崎直太先生です。

大崎教授は、サテライトが所在する協定大学で日本語クラスを開講、山形大学の学生を日本語チューターとして現地に招き、クラスの指導・運営を任せることで、グローバル化時代に適応するための経験の場を与えています。同時に、現地の受講生にも日本語を学ぶ機会、日本を知る機会、山形大学への留学情報を提供しています。また、本学学生の異文化の理解及び留学への動機付けをはかる目的で、協定大学への短期派遣プログラムを実施しています。

本学ホームページでは、「大崎教授の海外駐在記」を公開しており、駐在先の文化や学生・教職員との交流などについて詳細に記しています。ほかに、日本語クラス派遣チューターや短期派遣プログラムに参加した学生の報告文も掲載しており、現地での活動をより身近に感じられる内容となっております。

留学生数(人)  
(各年5月1日現在)



※'11は東日本大震災の影響により減少しています。

「大崎教授の海外駐在記」  
詳細については、山形大学  
ホームページ右下のバナー



よりお入りください。  
(<http://www.yamagata-u.ac.jp/jpn/you/modules/common14/index.php?id=59>)

左端が大崎直太教授（ハノイ農業大学にて）



日本語クラスの様子

